



歴史的農業環境閲覧システムより

地球温暖化問題と生物多様性問題はつながっている

1880年代の地図を見ると、北から、雑木林、畑、水田が1/3ずつ分布していた。

2020年近くなると、まとまった林は施設にのみ残存していたが、コロナ禍が過ぎて一橋大学に入ってみると重要な自然（草原性の自然＝職員集会場）が失われていた。



国土地理院 2019 撮影

本来国立市に生育・生息していた生きもので自然を回復し、そのバイオマスを利用した地産地消の生活や生態系サービスを楽しむことを通じて、自然を適切に使いながら、化石燃料の消費を提言すべきだと考える。

そのため、ロードマップは2つの面が必要なものの片側の面が強調されたものという印象を強く受けた。